

WINDOW



多くの来場者があった土佐祭り(ブラジル)



賑わいをみせる高知物産展(アメリカ)

2015
Spring
No.62

特集

ブラジル及び米国ロサンゼルスにおける 高知県産品販路開拓

- 当協会の補助金を活用した国際交流団体の活動報告
ガーナよさこい支援会
- ミクロネシア連邦大統領高知訪問
「夢は赤道に」英訳本発行
- 高知で夢を追う世界の若者たち
高知ファイティングドッグス球団
- 高知県海外技術研修員が「インターナショナルデイ」に初参加
- INFORMATION BOARD
JICA国際協力推進員着任あいさつ
GENKI青年会土佐弁ミュージカル2015開催のご案内

当協会の補助金を活用した国際交流団体の活動報告

～土佐高生ガーナへ研修旅行～

ガーナよさこい支援会 中田 昌志

2002年に日本ガーナ両国の若者の交流を支援するボランティア団体として、当会は設立されました。

2014年夏季ガーナ研修旅行は、高知県国際交流協会からの補助金を活用させて頂きました。改めまして報告と御礼を申し上げます。

2014年7月23日、土佐高生10名、麻布高生11名、引率教員3名、大学生及びガーナよさこい支援会の総勢29名、ガーナへ研修旅行に出発した。

7月24日アクラ空港に到着、ガーナ外務・教育長等に迎えられ入国した。ガーナ共和国は1957年に独立。公用語を英語に統一、教育は全寮制学校を創設、部族の融合を図った。セント・ピーターズ(SP)高等学校はその代表校。

7月28日、SP高校を訪問。我々は大講堂で校長、教員、全生徒に迎えられた。校長より歓迎の辞を頂き、謝辞を述べた。ハローは日本語で「こ・ん・に・ち・は」と挨拶を切り出すと、ウォーと雄叫びで歓迎された。サッカーの親善試合が始まると、土佐高の女子生徒が突然「私、試合に出る!」と言うやグラウンドに走り出た。紅一点、土佐の「はちきん」である。この勢いで熱戦の火蓋が切れ、汗を流し奮戦。試合終了後、出場者より友情の笑顔が見られた。

研修旅行は、大統領府表敬訪問、ガーナ外務大臣主催の歓迎昼食会、日本ガーナ大使表敬訪問。野口英世博士研究所では、博士が人類に貢献した偉業を学んだ。負の

遺産エルミナ城・ケープコースト城で残酷な奴隷輸出現場を見て驚愕。

そして最も大事な交流は、2泊3日のホームステイ。ホストファミリーとの面会時、不安と緊張の生徒たちは、順次名前を呼ばれホストファミリーを紹介され、ハグして迎えられた。交流を終えた生徒たちは、目を輝かせ生き生きとした笑顔でホテルに帰ってきた。ガーナのお父さん、お母さん、兄弟が誕生していたのだ。これが真の交流だと感動した。

ガーナ研修旅行を通して、ガーナの歴史や文化を学び、ホームステイでは寝食を共にして、人の愛を感じ、人と人の絆が築かれた貴重な体験となった。

8月3日、参加者全員元気に帰国した。

「あなたは今、自由ですか。」この言葉に僕は様々な人種の人達の思いが込められているように思えた。ヨーロッパからやってきた貿易商によって、先住民達は淘汰され、奴隷として取引されるようになった。薄暗く、不衛生な部屋に何十人もの奴隷が幽閉されていた。エルミナ城は元々物資を保管する場所だったので、まだ生き長らえることができたが、ケープコースト城は悲惨だった。元から幽閉する場所だったため、最悪の生活環境で、奴隷が解放された時最高70cmもの排泄物が堆積していた。奴隷制度は有史の中で最も劣悪なものの一つだろう。しかし、これは日本人が悪いのではない。悪くないと言えば語弊をうむが、これは白人だけの過ちと考えるのではなく、人類全ての問題なのだ。(土佐高2年 海保哲太)



野口英世博士研究所訪問



ホストファミリーとの交流



サッカー終了後に記念撮影

2015年度民間国際交流・協力事業費補助金交付申請の詳細につきましては、3月中旬ごろに当協会HPに掲載予定です。

ミクロネシア連邦大統領高知訪問

高知県国際交流課 主幹 與名 良



タロイモ・バナナ焼酎の説明を受けるモリ大統領



植樹式でのモリ大統領と尾崎知事



牧野植物園内での記念撮影

2014年11月7日から8日までの1泊2日の日程で、ミクロネシア連邦のエマニュエル・マニー・モリ大統領が、本国から政府職員及びモリファミリーと共に来高されました。

今回3度目となる大統領の高知訪問は、大統領の曾祖父でもある森小弁氏の故郷・高知にて、連邦独立28周年記念レセプションを開催し、両地域の絆をさらに深めたい、との大統領のご意向により実現されました。

本県では、この機会を捉えて、これまでの交流の成果を実感できる取り組みとして、7日初日、県工業技術センターの食品加工研究棟をご訪問いただき、焼酎蒸留装置やマイクロ波抽出装置の見学、ミクロネシア産タロイモ等から試験醸造された焼酎の試飲をしていただきました。

翌8日には、2014年1月に友好の証として大統領から知事へ贈呈され、牧野植物園で育成・管理されていたパンノキの苗木を、関係者が見守る中、大統領と知事によって植樹されました。今は50cm程のパンノキですが、両地域の末永い友情を祈念し、すくすくと生長していくことを願っています。

植樹式に先立って行われた懇談で、大統領より工業技術センターの取り組みが今後はJICAの事業等を通じた技術協力へ発展することへの期待が述べられ、知事もそれに同意し、さらに、今後は観光面での相互交流等の具体的なプロジェクトも進めたいとの提案も行うなど、将来の展開に期待を繋ぐ懇談となりました。

「夢は赤道に」英訳本発行

高知・ミクロネシア友好交流協会 事務局 山本 敦夫

幕末・維新の激動期を経て、日本が近代国家へ突き進んでいた1891年の暮れ、小さな帆船「天祐丸」で、赤道方面に向かう青年がいました。高知市出身の森小弁、22歳。

序章で始まる夢は赤道に一南洋に雄飛した土佐の男の物語です。小弁はミクロネシア連邦チューク州に居を構え、現地の酋長の娘イサベルと結婚し6男5女をもうけました。その子孫は、現在は3000人の大ファミリーとなり、ミクロネシア連邦(チューク州)の経済界を中心に各界で活躍しています。そのファミリーを2012年6月に訪問した際に、流暢な日本語で小弁を語り、故郷高知への思いを話してくれた6男、六郎さんはすでに他界していました。今の森ファミリーの3世、4世の方たちで、小弁の歴史を語り、故郷高知を話される方はいなくなりました。彼らは、それを知り、未来に残したいのです。2014

年11月、ミクロネシア連邦独立28周年記念レセプションにエマニュエル・マニー・モリ大統領、モリファミリー8人の来高をいただき、その場を借りて「夢は赤道に」を「From Kochi to Micronesia」と改題し、クリスマスイブには届くように出版準備ができたことを報告し、11月25日に1500部をポンペイ州、チューク州に発送しました。

数日後、ホノルル、グアム、サイパンからの依頼があり発送しました。それぞれからハッピー、感謝、感謝と大好評です。これからも高知とミクロネシアが深い絆で結ばれることを期待します。

この度の出版にご協力いただきました高知新聞社様、翻訳、校正して頂いた方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

ブラジル及び米国ロサンゼルスに

ブラジル販路開拓ミッション

高知県産地消・外商課 チーフ(貿易振興担当) 濱村 佐知子

2014年8月21日(木)から26日(火)にかけてブラジル販路開拓経済ミッションを開催しました。このミッションは、2013年10月に帰高された高知県佐川町出身で当時ブラジルの国会議員であったルイス西森氏が知事を表敬訪問された際に、同氏の「高知とブラジルの懸け橋となりたい」という熱意を受けて、今後の交流の活発化を約束されたことがきっかけです。実施時期はブラジル高知県人会主催の「土佐祭り」に合わせ、祭り会場でユズをはじめとする県産品を出展し、ブラジルでの販路開拓の可能性の調査も行うこととなりました。

150万人と世界最大の日系人が住むブラジルですが、単独の県人会が独自の祭りを開催しているのは高知県だけということだけでも誇らしいことですが、日系3世・4世の20代・30代のブラジル高知県人会青年部が主催する「土佐祭り」は第3回目となる2014年には過去最高の3万人を動員するという記録を打ち立てました。サンパウロ市内の緑ゆたかなアグア・ブランカ公園で開



土佐祭りでの太鼓演奏

催された「土佐祭り」は、食べ物の屋台約30ブースに加え、ステージでは踊りや歌が次々と披露されるなか、子供連れの方々には可動式の遊具が人気を集め、めまいのするような炎天下にもかかわらず人の波が途切れることはありませんでした。

県産品販売ブースには、ユズ飴、ユズグラッセ(砂糖がけ)、ユズポン酢、芋ケンピ、羊羹などの商品が並べられ、県人会の婦人会員の皆様が、お手製のさくら餅などオリジナルのお惣菜とともに売り込みをいただきました。残念ながら、輸送コストなどの影響で、地元食材を使った近隣の屋台との価格差が大きいこともあり、売れ行きは期待したほどではありませんでした。ただ、船便で1ヶ月余りをかけて輸送されてここブラジルに高知県産品が並んだことは今後に可能性を残した、大きな一歩となったと考えています。

また今回は、ブラジル高知県人会の会員であるサンパウロ郊外の農園の視察の機会に恵まれるとともに、最終日にはブラジル式バーベキューのお店での盛大な送別会を開いていただくなど、滞在中は終始県人会の皆様をサポートのお陰でミッション団全員がとても快適に目的を達成できました。このご縁を活かし、県内事業者の方々が高知への関心を少しでも持っていただけるよう、日々の活動の中でブラジルでの経験をお伝えしていければと考えております。

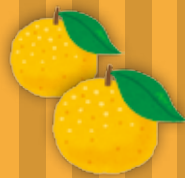


大人気の日本食



屋台で腕を振るうブラジル高知県人会婦人会員のみなさん

における高知県産品販路開拓



米国販路開拓

高知県産地消・外商課 主査 百田 将

米国の中で最も日本人の多い地域の一つであるカリフォルニア州トーランスにあるMitsuwa Market Placeにて2014年秋に10週間にわたってテスト販売として、現地消費者にアピールできる商品の調査を行い、テスト販売の総仕上げとして最後の3日間は高知物産展を開催しました。また、物産展終了の翌日にはJapanese Food and Culture Association(JFCA、日本食文化振興協会)およびJapanese Restaurant Association of America(JRA、米国日系レストラン協会)主催で、Hilton(Universal Studio)で開催されたJapanese Food And Sake Festival(フェスティバル)に参加しました。

テスト販売事業では、アンケートを実施することにより出展商品それぞれについて現地の消費者の声を聞き、それを出展事業者の皆様にお伝えしました。今後、海外市場に進出するにあたって商品の改良や売り方について、有益な情報をお伝えできたと思っています。一例をあげると、現地ではなじみのないユズ味噌をサンドイッチにして試食販売すると、完売してしまいました。

物産展では、現地の高知県人会の方々から多大な応援を受けました。家族や友達とともにご来店頂き高知県産品を購入するだけに止まらず、一部の方には売り子としてご活躍頂きました。また、地元紙「羅布新報」や「日刊サン」、「Lighthouse」に物産展の情報が掲載されるなど、広報活動もしていただきました。

高知県の参加事業者と県人会の方々には店舗はもちろん、現地の他店舗と一緒に視察したり、夕食をともにしたりして、土佐弁での現地の情報交換を行い、商品に対するアンケートでは取りきれない本音を伺うことができました。

物産展では、ジョン万次郎氏や高知出身でハワイにわたりキリスト教伝道や日本人社会で様々な活



フェスティバルの様子



南加高知県人会によるよさこい披露

動を行った奥村多喜衛氏のパネル展示を行いました。現地TVのドキュメンタリーで取り上げられたこともあるジョン万次郎氏のパネルはもちろん、奥村氏のパネルも高知県物産展の隣でハワイフェアが行われていたこともあり、ハワイに興味のある人やハワイ出身者が熱心にパネルを読む姿が見られました。

最後に行われたフェスティバルでは高知県企業のブースの他、高知県のユズ果汁が会場の各試食テーブルに醤油等と一緒に並べたり、高知県産ユズを使った現地メーカーの商品ブースが出来る等、高知県をPRできました。また、高知県人会の方々には、よさこい祭りをステージで披露いただき、高知県とフェスティバルに訪れた方々との交流をより一層深めました。

今後、高知県のロサンゼルスにおける販路開拓にあたっては、現地県人会との協力を強めていきたいと考えております。



▲Mitsuwa Market Placeでのテスト販売

高知で夢を追う世界の若者たち

高知ファイティングドッグス球団

「あのアフリカから来た子、頑張ってる?」

球場に来る多くのお客さんから訪ねられる「あの子」の名前は、サンホ・ラシナ。世界最貧国の一つ、西アフリカのブルキナ・ファソという国から、プロ野球選手になる事を夢見て来日した17才の少年です。ブルキナ・ファソに派遣された青年海外協力隊員との出会いをきっかけに、多くの日本人の支援を受け、2013年夏にファイティングドッグスのある高知県にやって来ました。

祖国ブルキナ・ファソから遠く離れ、同年代の若者と寮生活を送るラシナの母語はフランス語。フランス語を解する球団スタッフはいませんが、常に通訳としてサポートしてくれるわけではないので、日本語を覚えなければいけません。挨拶などの生活に必要な言葉だけでなく、野球選手としてプレーするためには覚えないといけない事は山ほどあります。好奇心旺盛なラシナは、アフリカと全く異なる文化や習慣を前にしても、それを素直な気持ちで受入れ、驚くほどのスピードで日本語を上達させ、日本生活に適応してきました。来日から1年が過ぎた今では、言葉に困ることもなく、チームメートと冗談を交わせるほどです。

アフリカから来た少年は県内各地で話題となり、国際交流のイベントや授業に引っ張りだこです。特に小学校や中学校では、アフリカの様子やラシナの日本でのチャレンジを紹介する機会を沢山いただきました。そんな機会にラシナから日本人の少年少女に発せられたのはこの質問です。



仲良くなった
窪川小学校の
子どもたち

「みなさんは夢を持っていますか?」

貧困に苦しむ家族を支えるために、学校に行く事もあきらめて働かざるを得ないのがアフリカの現実。そんな中でも、プロ野球選手になるという夢を持ち、日本に来てチャレンジできる事がどれだけ恵まれているかを十分に理解しているラシナの目には、日本の同年代の若者たちが、経済的に恵まれている半面、夢を持っていないように映り、驚きを隠せません。そんなラシナにとって、毎日の練習は夢に近づくための大切な機会です。明るく真面目な性格で練習に取り組み、貪欲に色々な事を学ぼうとする彼の姿は、同じ夢を持つチームメートにもいい刺激となっています。残念ながらまだ登録選手として公式戦に出場する事は出来ませんが、この1年間での成長には、コーチも太鼓判を押してくれています。

チャレンジ2年目の今年、登録選手として契約を勝ち取り、公式戦に出場する事を目指します。今日もホームタウン越知町のグラウンドでは、練習を見に来てくれたファンの方と練習を終えたラシナが笑顔で言葉を交わす姿が見られます。

野球の国際化に貢献する事をチャレンジの一つと位置付ける我々高知ファイティングドッグス球団は、ラシナの挑戦を、高知のみなさんと温かく見守っていきたいと思います。そして、ラシナに続いて野球で夢を叶えたいと頑張る世界中の若者に、挑戦の機会を与えていきたいと思っています。



球団の農作業
を楽しむラシナ



練習に真剣に取り組む毎日

高知県海外技術研修員が「インターナショナルデー」に講師として初参加!

当協会では、高知県からの委託を受け、高知県研修員受入事業(※)に係る研修受入先との諸連絡や研修員の生活指導などの業務を行っています。2014年度に受け入れた4名の研修員のうち11月に帰国したフィリピンからの研修員1名を除く南米出身の3名が、2014年12月16日に高知南高等学校で行われた「インターナショナルデー」に講師として初めて参加しました。研修員は、母国を紹介するプレゼンテーションを用意し、留学生を含む国際科の生徒100名と他国出身の講師8名と交流しました。

国旗をモチーフにした生徒の手書きのイラストが貼られた各国のブースで、それぞれのプレゼンテーションが始まりました。

ブラジルからの研修員、宇都宮ミレーネあゆみさんとハチズカ・ヨシダ・エイトールさんは、ブラジルの位置や国土面積、首都、お札に描かれている絵柄についてクイズを出したり、リオのカーニバル

の動画を紹介しました。

パラグアイからの研修員、秦泉寺昇さんは、表と裏のデザインが異なるパラグアイの国旗や現地をよく飲まれているマテ茶などを紹介し、自身が日本に来て驚いたことについても話しました。

当初、研修員からは緊張した様子うかがえましたが、元気いっぱいの生徒たちと接していくうちに、次第に打ち解け、ブースからたくさんの笑い声が聞こえてくるようになりました。

研修員に「インターナショナルデー」の感想を聞いてみたところ、全員から「楽しかった!」との返事がありました。また、生徒からは「サンバがすごかった!」「紹介してくださった方が楽しかった。」「国旗や国の食べ物のことなどが知れてよかったです。」などの感想をいただきました。

当協会では、今後さらに県民の皆さんと研修員が交流できる場を設け、異文化理解を深める活動を行っていきたいと考えています。



「お尻の大きな女性がモテるって本当ですか?」との質問があったブラジルのブース



パラグアイの話に耳を傾ける生徒たち

(※)この事業は、高知県が友好姉妹都市であるフィリピン・ベンゲット州から協力交流研修員を、また中南米諸国(ブラジル、パラグアイ、アルゼンチン)から海外技術研修員を受け入れ、必要な技術や知識を習得させ、研修員の属する国の発展に寄与するとともに、県民等との交流を通じて友好親善を深め、県の国際化に貢献できる人材を養成することを目的としています。



参加者全員で記念撮影

INFORMATION BOARD

JICA国際協力推進員 着任あいさつ



杉尾 智子

こんにちは。杉尾智子ことOSUGIです。昨年8月から勤務を開始しました。
私の小さい頃からのキーワードは「世界平和」。広島で生まれ多感な幼少期を過ごしたからでしょうか。そのキーワードに突き動かされるように18歳から、アメリカ、ヨルダン、マラウイ、ネパール、インドなどなど、色んな国を訪問したり、そこで働いたりしていました。どの国もたくさん事情を抱えていましたが、平和を感じる場所は共通していました。それは、人が人を、そして自然を大切にしているところ。貧困で苦しんでいようが水不足に悩まされていようが、そこだけはいつも、陽だまりのような暖かさを感じました。
私は高知で、そんな平和の陽だまりを紡いでいきたい。そのためにまずは、皆さまとご縁を繋ぐところから…ということで！今年4月、下記のイベントを行います。映画は毎回、必ず涙する人のいる感動モノ。どなたでもお気軽にお越しください。

[注]杉尾さんは、当協会内にデスクを置いて活動されています。

僕たちにできることは必ずある!「JICAボランティア募集!」

あなたの技術・経験を開発途上国で生かしてみませんか?
下記の通り、2回募集説明会を行います。(参加無料、申込不要、入退室自由)

時 4月11日(土) 13時30分～17時

所 高知県立県民文化ホール 第6多目的室
※「初めての方のためのTOEIC330点」講座

時 4月26日(日) 13時30分～17時

所 高知市文化プラザ かるぽーと 中央公民館 11階 大講義室
※映画無料上映『南の国の大統領—沈みゆくモルディブ—』

HP <http://www.jica.go.jp/shikoku/enterprise/volunteer/index.html>



中東についての出前講座もできます!

GENKI青年会 土佐弁ミュージカル2015「土佐の魔法使い」

あなたの人生に「GENKI」を足してみませんか? 毎年恒例の土佐弁ミュージカルを開催します!

今年のタイトルは「土佐の魔法使い」。日本人にあまり知られていない「オズの魔法使い」を土佐風に紹介します。東京の高校生たまきちゃんは、高知のおばさんのところに引越しましたが、東京の友達に会いたくて、高知の生活になかなか慣れません。ある日、たまきちゃんは台風巻き込まれ、ファンタジーの国「土佐」に飛ばされてしまいます。そこは、ユズびと・和紙びと・生きる案山子らが住んでいる不思議な国で、人間の世界へ帰る方法を探しながら、土佐弁を身につけ、友達も作り、大冒険をします。



土佐弁ミュージカル2014「ホグワーツ土佐流魔法魔術学校」の一場面



入場料は無料ですが、募金活動を行っています。海外留学を希望する高知出身の高校生・大学生を支援する助成金として活用しますので、ご協力をお願いします。

公演日時・会場

4月18日(土)	土佐市	土佐市立USAくろしおセンター	12:00
	四万十町	四万十町窪川四万十会館	18:00
4月19日(日)	梶原町	ゆすはら座	12:00
	四万十市	四万十市立文化センター	18:30
4月25日(土)	香美市	香美市立保健福祉センター香北	12:00
	安芸市	安芸市民会館	18:30
4月26日(日)	本山町	本山町プラチナセンター	13:00
	高知市	県民文化ホール(グリーン)	19:00

※開演時間は変更される場合があります。

お問い合わせ: GENKI青年会代表 クレア・マークス
TEL: 088-823-9605 (高知県国際交流課内)
Website: www.tosabenmusical.blogspot.jp

